農学部

Ⅰ　教育水準　.....　教育 14-2

Ⅱ　質の向上度　.....　教育 14-5

Ⅰ　教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　教育の実施体制

期待される水準を大きく上回る

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、当該学部は学科の枠を外し、5 課程 22 専修（平成 18 年度入学生から 3 課程 15 専修）を設置して大学院農学生命科学研究科所属の他機関での勤務経験（57%）や海外所属機関経験（63%）を有する教員が専修の教育を兼担するとともに、多様な非常勤教員が農学関連分野の教育を補完し、当該大学院における高度の専門能力の開発に、社会・文化・産業活動に貢献できる人材の育成に当たっているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、専修担任と課程主任から構成する学部教育会議において、学部教育組織改革、講義科目の改革、シラバスの編集、授業日程の決定、授業評価、進学振り分け条件の検討、編入学試験の実施、オープンキャンパス、キャリア講演会など、学部教育運営全般について審議し、教育方法の改善や学生のトラブル等の迅速な対応のために課程主任から構成される小委員会を設けて対応しているほか、外部有識者からなる運営諮問会議から、学部教育改善の方針について提言を受けているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

特に、従来の学科制を廃止して、いわゆる学科の壁（教員と学生が同じ組織に所属することの弊害）を無くし、新たに 5 課程 22 専修（平成 18 年度から 3 課程 15 専修）を設置して多様な教員が専修の教員を兼任するという取組は画期的な取組であり、専修担任と課程主任から構成する学部教育会議において学部教育運営全般について審議し、教育方法の改善に当たるとともに外部有識者からなる運営諮問会議から学部教育改善の方針について提言を受けるなどの複数の優れた成果を上げていることは特筆すべき状況にあるという点で「期待される水準を大きく上回る」と判断される。

以上の点について、農学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、農学部が想定している関係者の「期待される水準を大きく上回る」と判断される。

2.　教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、リベラル・アーツ教育が重視され、教養学部前期課程では農学部への進学者が多い理科二類において、生命科学・物質科学・数理科学の基礎や科学と社会の関わりの理解を深めるように配慮され、２年次冬学期には農学分野の広い見識を養成する農学主題科目と専門教育への円滑な移行を図るための課程基礎科目が設けられている。課程及び専修における専門教育は講義からなる課程専門科目と実験・実習・演習・卒業論文等よりなる専修専門科目として各課程の専修ごとに配置されている。このように、農学全般に対する広い視野を養った後に、より高度な専門知識を身に付けていくよう体系的に教育課程は編成されているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、学生は自分の将来を見据えて独自のカリキュラムを組めるように、他学部科目を卒業単位として認めていること、現場を体験するインターンシップ活動が重視され、多くの学生が実施していること、社会規範を理解し遵守する指導者を育成するという社会からの要請に応じるため、安全管理教育と、倫理教育関連科目の履修を義務づけていること、就職のためのガイダンスの一環として、卒業生20名前後を講師として招くキャリア講演会が平成17年度以降開催されているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、農学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、農学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準を上回る

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、平成８年度から詳細なシラバスが配付され、学生の主体的な学習プログラムの作成と学習意欲の向上に役立つとともに、各専修の専門性に合わせた学内外や海外施設と提携して実践的な演習が実施され、実験・実習科目には多数の大学院生がティーチング・アシスタント（TA）として技術指導に当たっているほか、授業の効率化を図るため、視聴覚設備の充実を図っており、これらの教育効果に対して学生から高い評価を得ている。また、これに加えて、学生からの評価を参考にしつつ、90％以上の教員は授業改善に鋭意努めているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、学生は自らの意志で学ぶ姿勢を身につけるよ

うに教科履修のためのガイダンスが各専修で進学前及び進学後に行われ、各専修では新しい授業形態として、少人数グループ学習法が導入され、考察力やプレゼンテーション力の向上等の工夫が実施されている。また、勉学意欲を高めるための試みとして、平成 18 年度から成績優秀者の学生表彰を実施しており、学生の授業アンケートにおける評価から高い満足度が得られているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、農学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、農学部が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、ほぼ 80%の学生が、必要数よりも多くの単位を修得し、最短修業年数で約 90%の学生が卒業しており、卒業に至らずに退学した者は 1.2%と低い水準であり、卒業研究等の活動は学術水準が高く、平成 16 年度からの 4 年間で 6 件の賞を受賞し、また資格取得に対して意欲的であるなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、授業内容に対する興味・関心が授業により深まったかという質問に対し、否定的な回答は 10%以下、講義内容について必要でないなどの回答は 10%未満、さらに、フィールド科学への理解・習得を目的とした実習においては否定的な回答は数%であり、学生は講義や実験・実習に興味・関心を深めているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、農学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、農学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、平成 18 年度の状況ではあるが、卒業生の 68.2%が大学院（他大学、海外を含む）に進学し、さらなる高度な知識修得を目指している

と窺える。卒業生の 30.4%が就職し、職業別では専門的・技術的職業従事者が約 30%を占め、社会の多分野へ人材を輩出しているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、約 70%の学生が優秀な成績で大学院に進学し、大学院での指導教員はその将来性を高く評価し、年度ごとに開催している卒業生を招いたキャリア講演会では、様々な分野で活躍する卒業生から、「社会に出てからの自己研鑽の必要性等を認識しながらも、仕事にやりがいを感じ、各方面で活躍している」とのコメントがあり、卒業生が当該学部の教育理念を実践しているなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、農学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、農学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II　質の向上度

1. 質の向上度

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

当該組織から示された事例は４件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」と判断された。